

掛時計のメッカだった名古屋

Nagoya, a mecca of wall clocks

1888 (明治21)年、日本で最初の掛時計の量産工場「時盛舎」(のちの林時計)が生まれ、その成功を見て、愛知時計など多くの時計工場が立ち上がり、名古屋の主要産業として発展しました。

明治時代には国産掛時計の半分以上を名古屋が占めました。木曽特産の優良な木材が豊富にあり、有能な木工職人が沢山いたことが、その大きな理由でした。

しかし、1900年に主な売り先である清国での義和団事件がきっかけで輸出が途絶えたことや、金属加工技術が育たなかったことから、徐々に衰退していきました。



クロックの側面塗装 (写真提供：日本時計協会)

度量衡 (どりょうこう)

Weights and measures

1875 (明治8) 年に度量衡条例が公布され日本もメートル法を採用しましたが、旧来の尺貫法が根強く、改めて1891 (明治24) 年に度量衡法を公布することで、メートル、キログラムが広まりました。

太陽暦と定時法

The solar calendar and the fixed time system

1872 (明治5)年12月3日、この日を境に日本でそれまで使われていた太陰太陽暦が太陽暦に改められ、1873 (明治6)年1月1日と読み替えられました。同時に定時法も採用され、欧米と同じカレンダーとなりました。

グリニッジ標準時

Greenwich mean time

1884 (明治17)年、ワシントンで国際子午線会議が開かれ、ロンドンのグリニッジ天文台を通る子午線が経度の世界的な基準となりました。それに伴い日本では、1886 (明治19)年、東経135度 (兵庫県明石市) の子午線を日本標準時と決めました。

和時計の末期と時計師たちのその後

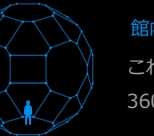
The last traditional Japanese clocks (Wadokei) and the craftspeople's role

1873年の定時法への移行とともに、和時計は非近代化の象徴として扱われ、その多くは破棄または海外へ流出しました。その一方で、当初、日本を席卷していた米国製掛け時計（通称、ボンボン時計）を駆逐していく原動力になったのが、和時計の時計師たちでした。和時計製造で培われた技術が、後の日本時計産業の発展に役立ったと言われています。

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.